

普及活動情勢報告（平成 28 年 11 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

お互いの生育状況や栽培管理を確認 ～南国市施設園芸環境制御技術研究会現地検討会から～



栽培管理について会員同士で意見交換

11月9日、南国市施設園芸環境制御技術研究会は現地検討会をJA長岡管内で開催し、会員8名を含む12名が参加しました。

シトウとピーマンのほ場3ヶ所を巡回し、事業で導入した環境制御機器の設置状況、生育状況、栽培管理について、質問や意見交換を行いました。生産者は温度管理、かん水量、収量等について「多い」、「少ない」といった感覚で表現するのではなく、具体的な数値を用いて説明しました。研究会は年内に現地検討会をあと2回開催する予定です。

農業改良普及課は、引き続き会員の増収及び品質向上のために、研究会活動を支援していきます。

高知大学・物部キャンパスで農村女性リーダーがPR活動を実施



旬の野菜を取り揃え

中央東地区農村女性リーダー協議会は11月3日、高知大学物部オープンキャンパスにて日頃の活動をPRするため、活動内容を紹介したパネルの展示や野菜販売、苗の鉢上げ体験などを実施しました。

農業改良普及課は、事前準備や当日のスムーズな運営などについて事務局として支援しました。当日はリーダー10名が参加し、自分達の栽培した野菜についての質問では、食べ頃や、調理の仕方などについて丁寧に説明していました。また、野菜苗1000鉢分の鉢上げ体験コーナーは大人気でした。

農業改良普及課は、今後もPR活動等、活発な活動につなげられる支援をしていきます。

冬の特産野菜、葉ニンニクの出荷始まる



出荷物を確認する参加者ら

11月16日、JA南国市南部集出荷場において、JA南国市が葉ニンニクの日慣らし会を開催しました。葉ニンニクの生産者7名が参加し、出荷が本格化するこの時期にJA担当者から規格や荷造り時の注意点等について説明を受けました。農業改良普及課からは、定植労力の省力化試験の状況や鮮度保持試験への取り組み等について情報提供しました。

参加者からは、「袋の長さ以上に葉が長いので、調整方法の変更はないか」、「種球の準備に労力がかかるため省力できないか」、「鮮度が落ちやすい品目なので鮮度保持技術を取り入れてはどうか」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も葉ニンニク栽培の拡大に向けて支援していきます。

南国市の3JA シシトウ部会合同で生産者大会を開催しました！！



生産者と市場担当者の様子

11月1日、南国市内の3JA合同でシシトウ生産者大会を開催しました。

生産者、市場関係者、農協などの関係機関を含め、総勢87名が参加しました。

農業改良普及課は、事務局として会議の運営、関係機関との役割分担などの調整を図るとともに、産地の取り組みについて紹介しました。今年、12市場の担当者へ出席をお願いし、出荷場では荷物、現地ほ場では栽培状況を視察してもらい、大会では生産者との意見交換を行いました。生産者から「産地に求めることベスト3は？」、「品種による違いは？」など多くの質問がありました。

農業改良普及課では、現状の生産量を確保するために新たに産地ビジョンの作成を進めており、産地の維持・強化に向けて取り組んでいきます。

ピーマン収量25t/10a超えの事例を共有 ～炭酸ガス研究会11月の勉強会から～



11月の炭酸ガス研究会より

11月4日、炭酸ガス研究会は「ピーマンにおける炭酸ガス施用効果」をテーマに勉強会を香南市で開催し、生産者19名を含む28名が参加しました。

農業改良普及課はJA土佐香美と連携して、管内のピーマン篤農家が炭酸ガスを施用した結果、収量が26.4t/10a（無施用の前年比約30%増）と飛躍的に増収した事例を紹介しました。その後の意見交換では、篤農家から具体的な温度、湿度、かん水、炭酸ガス等の管理や、整枝方法などの説明があり、参加者の理解を深めることができました。

農業改良普及課は、研究会や生産部会の活動で、環境制御技術の成果を積極的に周知し、環境制御技術の普及に努めます。

南国市の3JA 合同でシシトウ消費宣伝に行ってきました！！



シシトウのポン酢炒め作ってます！

10月22、23日に関東地方で、南国市内の3JA合同でシシトウの消費宣伝を行いました。各JAから女性5人と男性2人が参加しました。22日は量販店の「よしや大塚店（東京）」と「ヴェルジェ津田沼店（千葉県）」で「シシトウのベーコン巻き」を、23日は新宿の淀橋市場の市場まつりにて「シシトウのポン酢炒め」を試食してもらい、シシトウを販売しました。また、レシピを載せた冊子を配布しながら調理の仕方や特徴を紹介するなど、お客さんと交流しました。お客さんからは「おいしい！！」という声が多く聞かれました。農業改良普及課は、消費宣伝のサポートや市場担当者との情報交換を行いました。

農業改良普及課では、今後も南国市のシシトウ部会とともに、シシトウの消費拡大や生産量確保に向けた活動を支援していきます。

ニラの環境制御技術検討会を開催しました（香美市・香南市）



葉先枯れ対策について意見交換

11月16日に中央東農業振興センターでニラの環境制御技術検討会を開催しました。

ニラ栽培では炭酸ガス施用による増収効果が認められていますが、葉先枯れの発生が助長され、品質が低下することが問題となっています。検討会では、炭酸ガスを施用している生産者10名とJ A土佐香美、県関係機関が、これまでの調査結果等をもとに、葉先枯れの発生要因や今園芸年度に実施する対策等について話し合いました。生産者からは、夜間や早朝の温度を高め設定することや、日中の換気によって湿度を下げ、蒸散を促すことに取り組むといった意見が出ました。また、実証ほだけでなく各生産者の取り組みや生育状況、ハウス内環境等を把握していくことを確認しました。

農業改良普及課は、今後も生産者や関係機関と協力し、ニラの葉先枯れ対策技術の確立と環境制御技術の確立、普及に取り組めます。

冬至用ユズの品質をチェック！ ～ J A土佐香美柚子生産部会がサンプル選果を実施～



機械選果し等階級分けされたユズ

11月1日および15日に、J A土佐香美柚子生産部会は物部営農園芸センターでサンプル選果を実施し、生産者約50名が選果作業に参加しました。

サンプル選果は、冬至用ユズの等階級を正確に予測するために実施しています。農業改良普及課は、選果後にJ Aや部会役員と協議し、今年増加が予想される腐敗果の対策として、粗選果の徹底を呼びかけました。生産者からは後日、「アルバイトさんに収穫で気をつける点を説明するのに役立った。」等の声が聞かれました。

サンプル選果は11月末にも再度実施され、12月には本選果、梱包作業が開始されます。今後も農業改良普及課では、市場に信頼される日本一のユズづくりを支援します。

先進地から学ぼう！！園芸品目等への取組による収益向上を目指して（第3回南国市集落営農塾）



整備機械等を見学している様子



代表者から取組等について聞いている様子

11月8日に第3回目の南国市集落営農塾として、幡多地域の（農）ふぁー夢宗呂川と（農）荷稲米・米クラブを視察し、関係機関を含めて17名が参加しました。

コストを低減するため、近隣組織と組織を1つに集約して法人化したり、地域にお金を還元するため、飼料用米や園芸品目に取り組み、地域の女性や高齢者にも働いてもらったりとビジョンをもって目標に向かって取り組む重要性等の話をお聞きしました。

アンケート結果や帰りのバス内で参加者から「初めて研修に参加したが、今後も是非参加したい」や、「自分の集落の規模と似ており目指す組織の形が想像できた」等と前向きな意見が出されました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と協力して、農地を守る仕組みの一つとして、集落営農の組織化を支援していきます。

トルコギキョウの出荷規格検討会および現地検討会



開花中のほ場で現地検討

11月17日、JA土佐香美野市支所集出荷場において、JA土佐香美花卉部のトルコギキョウ出荷規格検討会及び現地検討会を開催しました。トルコギキョウ生産者10名と関係機関が参加し、JA担当者から規格や荷造り時の注意点等について説明を受けました。あわせて、出荷が始まっている生産者の3ほ場で本年度の開花状況や今後の管理について現地検討会を行いました。農業改良普及課からは、今後の病虫害防除と現在問題になっている新病害への対応について情報提供しました。

参加者からは、「今年は例年に比べて開花が1ヶ月は早い。高温が続いたために葉やけが出て切り花品質は十分ではないものの、単価が良いので助かっている」、「害虫のチャノキイロアザミウマが多く、防除に苦慮している」、「新病害はどのように注意しておく必要があるか」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もトルコギキョウ切り花の生産性向上に向けた支援を行っていきます。

JA土佐香美露地みかん部会「夢みかん」出荷検討会開催支援



現地確認の様子



出荷検討会の様子

11月15日、JA土佐香美果樹センターで、JA土佐香美露地みかん部会のトップブランドである「夢みかん」の出荷検討会が行われました。

「夢みかん」はシートマルチ栽培を基本にし、色々な条件をクリアした年末限定の山北みかんのトップブランドで、8戸の生産者が栽培に取り組んでいます。

農業改良普及課はJAと連携し、定期的に果実を分析調査して、品質を把握した上で、栽培指導を行い、高品質果実生産を支援しています。

協議会の当日は、取引市場や生産者、関係機関で現地ほ場を確認し、果樹センターで今後の出荷日等を検討しました。

農業改良普及課は今後もJAと連携し、仕上げ管理や次作に向けた管理指導等「夢みかん」の安定生産・販売が出来るよう生産者を支援していきます。